

浦和実業学園中学校

2015年度

入学試験問題

<第1回 午前4型>

国語

時間 50分

【受験上の注意】

1. 合図があるまでは、問題用紙を開かないでください。
2. 受験番号・氏名は問題用紙にも必ず記入してください。
3. 解答はすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
4. 解答用紙は使いやすいように折ってもかまいません。
5. 問題用紙は回収しません。書き込みをしたり線を引いたりしてもかまいません。
6. 字数制限のある問題の場合は、句読点や符号なども一字分として字数にふくめて答えなさい。

受験番号	氏名

一

次の各問いに答えなさい。

問一

——部のカタカナを漢字に直しなさい。

- (1) 運動会は雨天ジュンエンとなった。
- (2) 問題点をレッキヨする。
- (3) ハクネツした試合だった。
- (4) およそのケントウをつける。
- (5) りんごがシュツカされる。

問二

——部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- (1) 思わず顔を背けた。
- (2) 勤務先の会社を辞める。
- (3) 山の頂から絶景を眺める。
- (4) 仏前に花を供える。
- (5) 月日が経つのは早い。

問三 三つの□に共通する漢字一字を当てはめて熟語を作りなさい。ただし、解答は共通する漢字一字のみを答えなさい。

- (1) 往□・□訪・未□
- (2) 青□・□氣・□白
- (3) □形・成□・□相
- (4) 不□・治□・□全
- (5) 接□・浴□・□迎

問四 — 部の敬語を(例)にならつて、もとの言葉に直しなさい。ただし、解答はすべて二字とします。なお、(1)・(2)・

(3)において、また、(4)・(5)においては、それぞれ同じ言葉は使えません。

(例) 先生がおっしゃる。↓ 話す

- (1) 先生は明日から修学旅行にいらつしやる。
- (2) 予約されたお客様がまもなくこの店にいらつしやる。
- (3) 取引先の社長は今、応接室にいらつしやる。
- (4) 留守だったので、あらためて明日うかがう。
- (5) 相手の声が小さかったので、再度うかがう。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【第1段落】 以前、雑誌で対談した書道家の方から、巻紙に毛筆で書いた礼状をいただいたことがある。かつて手紙を書くという行為は、墨を摺るところから始まるのが普通だった。忙しい現代でもなお、手を動かして文字を書くことに心を込めるようでありたいものである。手書きの文字を直接、眼にすることにより、その人の人となりや思索の跡が手にとるように感じられるのだ。先に述べた自筆原稿や自筆譜と同じことなのである。たとえ全く同じ文面だったとしても、メールであれば、あまり印象に残らなかっただろう。自分の本意を伝えたいなら、それだけの時間をかけたという形跡を残すことだ。すると、そのこと自体が相手へのメッセージになる。

【第2段落】 筆記具は万年筆なのか毛筆なのか、ハガキにするか手紙にするか、手紙にするなら和紙もあれば事務用便せんもある。そうしたいろいろな選択肢から時間をかけて選び、その過程でその人のことを考え、**A** 短い文章でも気持ちを含めて一字一字でいいいに書いたなら、相手に本当の思いを伝えることができるだろう。そして、相手の記憶にもその思いが残り、何かの時にまた向こうから声をかけてくれるかもしれない。そうした人との心の通い合いは、手を動かすことから始まるのだ。

【第3段落】 人間は非常に賢い動物であり、どんなに複雑な作業でも、それを繰り返すことによって無駄がなくなってくる。たとえば手紙を書く場合、書き慣れた人なら下書きなしで最初から文章が書ける。どんな構成で書くか、というはつきりしたイメージを作ってから書くと、誤字や脱字が減るだろう。**B**、後から修正がきかない毛筆書きの手紙でも問題なく書けるわけだ。**C**、メールやワープロに慣れてしまうと、打ち間違っただけでも直せると思って書いてしまいい、タイプミスや変換ミスが頻発する一因となる。

【第4段落】 授業中に手書きでノートをとる意味は何だろうか？ プリントにしてあらかじめ配布してくれれば、考える

ことに集中できてよいと学生は言う。いや、自分で手を動かさないと考えるようにはならないのだ。プリントなら、考えなくても覚えるだけでよいと思ってしまうからである。手書きだからこそ、書かれたものには必ず書き間違いが紛れ込む。すると、後でノートを読み返して確認する際に疑問が生じるのである。それが自分の書き間違いなのか、先生の言い間違いなのか、それとも疑問を抱いた自分が勘違いしているのか、気になるに違いない。そうした疑問を一つ一つ解決する度に考えるのである。こうやって時間をかけてわかったことはなかなか忘れない。知識が初めて自分の財産になるわけだ。手書きでノートをとることも、考える能力そのものを鍛えるための作業だと思えば、無駄などではないのである。

【第5段落】囲碁や将棋でも、基本のトレーニングは、一手一手自分で手を動かして盤上に石や駒を並べるところから始まる。そして、過去の名勝負を記した棋譜を何度も再現してみるのである。棋譜をコンピュータ上で再現すれば矢印キー一つですむと思うかもしれない。しかし、手を動かし、じっくり時間をかけることで、考える余裕が生まれてくる。最初は一手一手がばらばらのように見えていても、ゲームの流れがつかめるようになると、奥深い構想のようなものが頭に浮かぶようになるだろう。棋譜にあった指し手が順に浮かぶようになれば、その思考過程が意識することなく脳に刻まれたことになるのだ。つまり、手を動かすことで、脳に考えることを促すのである。

【第6段落】高価な石や駒を見てみるとわかるように、縞や木目、そして彫られた文字の一つ一つに個性がある。愛着を持って石や駒を使い込むほどにその人の思索の過程が脳に刻まれていく。それは、紙の本でも同じことである。一冊一冊の個性的な本を通して考えた過程は、「脳を創る」ことになるのだ。

【第7段落】21世紀になって、電子書籍で手軽に本が買えて読める文化ができた一方で、初版本が復刻されたり自筆原稿本が出版されて人気を呼んでいるのはなぜだろうか。その背景には、急速に進んだ電子化の方向とは逆に、よりオリジナルに近い素のままの情報への渴望が根強く存在するためかもしれない。初版本や自筆原稿ファクシミリの価値は、電子書籍との対比によって、これまで以上にはつきりしてくることだろう。紙の本の価値と任務は、このようなきわめて情報

量の多い文化遺産を、流されずに継承することにあるのだ。このまま紙の本と電子書籍が共存し続けることが、未来の出版文化の最も理想的な姿だと考える。

(酒井邦嘉『脳を創る読書』)

※注 ・思索……筋道を立てて深く考えること。

・頻発……同じ種類の事がたびたび発生すること。

・棋譜……囲碁・将棋の対局の手順を記録したもの。

・初版本……最初の版で出された書籍。

問一 ―部①「墨を摺るところ」とありますが、ここではどのような意味で使われていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 不便で面倒な作業の中に日本の伝統文化を感じ取れる才能。

イ 周囲の雑音などがまったくなく、手紙を書くには申し分のない場所。

ウ 相手への感謝の気持ちを込めながら、単調な作業を繰り返す我慢強さ。

エ 相手への思いをめぐらせながら、手紙を書くための準備をととのえる段階。

問二 ― 部②「手を動かして文字を書くことに心を込めるようでありたいものである」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 手書きの文章の方がメールやワープロの文章よりもやさしさやぬくもりを感じられるから。

イ 手書きの文字を通して書いた人の人がらや、思いがひしひしと伝わってくるから。

ウ メールやワープロで書かれた手紙からは書いた人の気持ちがまったく読み取れないから。

エ メールやワープロの文章の方が読みやすい反面、画一的で面白みに欠けるから。

問三 ― 部③「時間をかけたという形跡」とありますが、その「形跡」の具体例として適当ではないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア お世話になった恩師にお中元を贈ったところ、はがきに万年筆で書かれた札状が届いた。

イ 仲のいい同級生から、旅先の様子を知らせる画像がメールで送信されてきた。

ウ 今年喜寿を迎える祖母から、和紙に毛筆と水彩絵の具で書かれた絵手紙が届いた。

エ 親戚の小学生の男の子から、自筆の年賀状が届いた。

問四 ― 部④「本当の思い」とありますが、これとはほぼ同じ意味の漢字二字の言葉を【第1段落】から探し、抜き出して答えなさい。

問五 ― 部⑤「授業中に手書きでノートをとる意味は何だろうか?」とありますが、筆者がこのような問いかけを読者にするのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 手間のかかる作業をあえて生徒にさせるのには、それなりの理由があるということを印象付けるため。

イ 手書きでノートをとることにどのような意味があるのかわからないので、読者とともに考えるため。

ウ あらかじめプリントを準備しておけば時間的余裕も生まれ、効率的であるということを強調するため。

エ 手書きでノートをとる必要性をまったく感じていない最近の若者に、考え方の誤りを指摘するため。

問六 ― 部⑥「知識が初めて自分の財産になる」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 知識を身につけておけば、将来経済的に困窮した時に必ず役に立つということ。

イ 知識は目に見えるものではないからこそ考える際に重要性に気づくということ。

ウ 時間と手間をかけて蓄積された知識は、確実にその人の血肉となるということ。

エ たとえ知識が身につかなくても、考える行為そのものに価値があるということ。

問七 ― 部⑦「過程」とありますが、これを言い換えたものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ステップ

イ プロミス

ウ スキップ

エ プロセス

問八 ―部⑧「初版本が復刻されたり自筆原稿本が出版されて人気を呼んでいる」とありますが、「初版本」や「自筆原稿本」と対比関係にあるものを同じ【第7段落】から探し、抜き出して答えなさい。

問九

A

B

C

度しか使いません。

ア ところが

イ たとえ

ウ だから

エ たしかに

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【これまでのあらすじ】

両親が離婚し、父親と二人で東京から広島に引っ越してきた中学一年生の「マナブ」は、転校先のクラスメイト「ヤス」と友だちになる。「ヤス」は野球部の上級生から勧誘されるほど野球が上手いが、母親が営む酒屋の手伝いをしなければならぬという使命感が強く、野球部に入ることを拒み続けている。そんな状況を見るに見かねた「マナブ」は「ヤス」の家に向かう。

【本文】

片桐酒店の店番をしていたのは、ヤスの母ちゃんだった。

ヤスは近所に自転車で配達に出かけていた。自転車の荷台に積めるのはビールや一升瓶のケースが一つだけなので、店と配達先の間を何度も往復しなければならない。

「おばちゃんが軽トラで配達したほうがずうっと速いんじゃないけど、足腰を鍛えるトレーニングになるけん、いうて」

母ちゃんはあきれ顔で言って、「じーっと座って店番をするんも飽きてきたんじゃないやろうなあ」と笑う。マナブも笑い返した。やっぱりあいつは体を動かしていないとムズムズしてきちゃうんだらうなあ、とおかしくなって、寂しくなって、悲しくなった。

「もうちょっと待って。じきに帰ってくるけん」

マナブはうなずいて、小さく咳払いをした。ヤスがいないうちに言いたかった。配達から帰ってきたときには、もう話がついている、というのがいい。

「あの……おばさん……僕、ここでアルバイトしたいんですけど」

「はあ？」

「アルバイトっていつでも、あの、べつに、お金は要らなくて、社会勉強っていうか……あの、僕、ずっと酒屋さんの仕事に興味があつて……一回やってみたくて……」

母ちゃんは驚いた顔でマナブをじつと見る。質問される前に、つづけた。

「夕方、手伝っていいですか？ 配達でもいいし、店番でもいいし、あと掃除とか、店の前に水をまくとか、なんでもします。お金、ほんとに要りません。お願いします。僕、夕方って、すごく暇で、退屈で、することないから、お店で仕事したいんです、お願いします……」

息が浅い。言葉が切れ切れになつてしまふ。マナブを見つめる母ちゃんのまなざしは動かない。ただ、表情からは驚きや困惑は消えていた。質問をしそうな様子もない。むしろ逆に、あえて黙つて、ぜんぶマナブにしゃべらせようとしていくみたいだった。

しかたなく、マナブは胸をとんと叩いて、さらに続けた。

「……夕方、僕が店の仕事を手伝つてやれば、ヤスはいなくてもいいですよ……あいつ、暇になつて、退屈になつて、だったら、まあ、いろんなことができるっていうか、自由行動できるっていうか、ヤスって、運動神経あるし、すごい奴で、野球の天才で、だから……僕は……」

③ 母ちゃんの手のひらが、通せんぼをするみたいに目の前をふさいだ。

「ようわかったよ、マナブくん」と母ちゃんは笑つて言った。

「あの——」

言いかけても、声がつつかえてしまふ。手のひらが、実際には動いていないのに、グツと迫つてきた。武道の達人は、刀を持たなくても、向き合った相手に人差し指を突き刺すだけで勝てる。そんなマンガの場面を思いだした。

「いつでも遊びにすればええんよ」

母ちゃんは言った。「そのときそのときで、お手伝いしてもらうてええ？」

「いや、あの、でも……そういうんじゃなくて……」

ええのええの、と母ちゃんは笑つて、つづけた。

「こがあとに友情で応援してもらうとるんじゃけえ、ヤスも野球部でがんばつて、マナブくんに恩返しせんといけんねえ」
④ ちゃんとわかつていた。すべてお見通しだった。

「夏休みになるとお姉ちゃんも手伝ってくれるし、立ち呑みのおじちゃんらも店を見ってくれるけえ、だいじょうぶ、なんとかなる」

目の前の手のひらが、さらに迫つてきた、ような気が——。

違う、ほんとうに近づいて、マナブの鼻の頭をキュツとつまんだ。

「ヤスの代わり」

母ちゃんはいたずらっぽく笑つて、「あの子、こがあとときはすぐに怒るじやろう？ よけいなことするなアホ、とか言うて」と、鼻を軽く左右に引っぱる。たいして痛くはなかったが、胸の奥が締めつけられた。

「あの子、ほんまに照れ屋じゃけえ……」

指を鼻から離し、手のひらをマナブの坊主頭の上に載せる。

⑤ 「マナブくん『ありがとう』もよう言わん思うけど、こらえちゃつてね」

鼻の奥がツンとした。うつむくと、母ちゃんの手は坊主頭を優しく撫でていく。誰かにこんなことをしてもらつたのは、広島に引越してから初めてで、「代わりに、おばちゃんがお礼言うたげるね。ほんとうにありがとう、マナブくんは優しゅうて、ええ子じゃね」と褒められたのも初めてだった。

ずっと困っていた。わからないことばかりで、^{とほう}途方に^{□□}□□[↑]ていた。東京にいた頃よりも、世の中のいろいろなことが急に難しくなった。知らないことがたくさんある。知りたいと思っても、どうせ「よそモン」にはわからないからと言われ、知っていることだけを話していたら、「よそモン」のくせに生意気だと言われる。じゃあどうすればいいんだ、と思って、誰もその答えを教えてくれない。だから、広島で暮らすのがだんだんキツくなって、広島のことを、ほんとうは、しばらく前から嫌いになっていて……。

「マナブくん、どうしたん？　なんで？」

母ちゃんに気づかれた。顔を覗き込まれた。「え？　え？」と母ちゃんはびっくりして、「泣かんでもええんよ、男の子が泣いたらいけんが」と困った顔で笑った。

「なあ、どうしたん、違うんよ違うんよ、おばちゃん、マナブくんのこと怒っとるんと違うんよ、なんで泣かんといけんのん、褒めてあげとるのに」

しゃくりあげながら、自分でも考えていなかった言葉を口にした。

資料館に行っていていいですか――。

僕みたいな「よそモン」でも、資料館で、原爆と広島のこと、勉強してもいいですか――。

平和公園にある、広島平和記念館のことだった。

平日の午後でも資料館は見学客でにぎわっていた。ほとんどが団体での見学で、小学生や外国人グループも多い。ユキオ（ヤスと同じく友だちになったクラスメイト）から聞いていたとおり通路は暗かったが、思った以上にぎやかな雰囲気^{ふんいき}にほっとして、微妙に拍子^{びみょう}□□しながら、順路に従って進んだ。

十六世紀から始まる広島^{ひろしま}の歴史をたどるところから、展示は始まっていた。日清戦争のときには軍用の輸送基地として

大いに栄え、明治天皇が滞在^{たいざい}して臨時の帝国議会も開かれるなど、戦前の日本にとってはとても重要な都市だったらしい。

日中戦争から太平洋戦争へと、歴史は進む。広島は軍都として大いに栄え、人口も増えていく。それはつまり、^⑥「標的」^⑥としての価値が高まっていくことでもあったのだ。

太平洋戦争の末期、原子爆弾を開発したアメリカは、原爆を投下する都市を決めた。広島、小倉、長崎――八月九日に長崎に落とされた原爆は、もともとの標的だった小倉の当日の天候が悪かったので、長崎に変更されたのだという。

広島に落とされた原爆は「リトル・ボーイ」という名前だった。少年。ふざけてるなあ、とマナブは奥歯を噛みしめた。その「リトル・ボーイ」を積んだB29爆撃機「エノラ・ゲイ」号が、マリアナ諸島のテニアン島を飛び立ったのは、日本時間で八月六日午前一時四十五分のこと。「エノラ・ゲイ」とは、機長の母親の名前だったらしい。

どうして、と奥歯をさらに強く噛みしめた。「エノラ・ゲイ」号の機長は、いったいなにを思って、一瞬で何万人もの命を奪い去ってしまう爆弾を落とす飛行機に、自分の母親の名前をつけたのだろうか。怒ったり悲しんだりしなかったのだろうか。その前に、息子がそんな任務に就いてしまったことを、どう受け止めていたのだろうか。

戦争だからしかたない？　敵の国民なんて何万人死のうともかまわないし、息子が人類史上初めての原爆を落としたことは、うれしくて、自慢できる……？

マナブは「リトル・ボーイ」や「エノラ・ゲイ」を説明するパネルから顔をそむけた。機長の母親の写真は展示されていなかったが、そんなことを考えるはずないよ、と自分に言い聞かせた。アメリカでも日本でも、誰かのお母さんがそんなことを考えるはずないよ、と念を□□た。

ヤスの母ちゃんの顔が浮かんた。

母ちゃんはマナブがいきなり泣きだしたので、とにかくびっくりして、あせっていた。資料館のことも、あまりに突然すぎたので、話の流れがよくわからないまま「誰が行ってもええんよ、資料館はみんなの場所なんじゃけえね」と言うだ

けだった。

それでも、涙を拭いて歩きだすマナブに、最後に言ってくれた。

⑧「たくさんのことを、いつべんに考えんでもええんよ」

マナブが訊き返す前に、ゆつくりとつづけた。

「怖かった、いうだけでもええの。平和や、戦争や、アメリカや日本や核兵器のことも大事じゃけど、それはあとから、時間をかけて勉強しながら考えんさい」

その代わり、と母ちゃんは言った。

「いろんなこと思っうてあけて」

「……思っ、の？」

「そう。全身を大やけどして熱かったろうなあ、痛かったろうなあ、なんがなんやらわからんうちに死んでもうたんかなあ、なんも悪いことしとらんのに悔しかったろうなあ、家族や友だちがぎょうさん死んでもうて悲しかったろうなあ……そういうことを、原爆で殺されたひとや、大ケガをさせられたひとや、つらい目に遭うてきたひとたちのために、思っうてあけて」

戦争が終わって十何年たってから生まれた子どもでも――。

「よそモン」の転校生でも――。

「昔のことを知らん子どもらや、よそから来たひとや、そういうみんなが、ずうっと思いつづけてあげとるうちは、アメリカもソ連も、原爆や水爆をよう落とせんよ。おばちゃんは、そがあに思っうとるんよ」

そうだろうか。わからない。そのとおりですね、と納得してうなづくことはできなかった。

母ちゃんも「⑨甘いかも知れんけどねえ」と自分で首をかしげ、「ほいでも、それが、おばちゃんの、平和活動」と言葉

を区切りながら言って、笑った。

(重松 清『赤ヘル1975』)

問一 ― 部①「おかしくなって、寂しくなって、悲しくなっただけ」とありますが、なぜ「マナブ」はこのような気持ちになったのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ヤスのために必死に走り回っている自分の姿を想像すると苦笑せざるを得ないが、自分自身のためではないことに気づき、むなしい気持ちになったから。

イ ヤスが店の手伝いをしている姿はほえましいが、その一方で、野球をやりたいという気持ちを我慢しているヤスの思いを想像するとかわいそうだったから。

ウ ヤスの母ちゃんと楽しく世間話をしていたが、そのうちに、自分には母親がいないということにあらためて気づかされ、孤独感がいつそう強まったから。

エ ヤスにとって野球ができるようになることはたしかに喜ばしいことであるが、その代わりにマナブ自身が酒屋の店番をしなければならず、責任を感じているから。

問二 ―部②「小さく咳払いをした」とありますが、このときの「マナブ」の心情を説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア あまりにも緊張して声がかれてしまったので、のどの調子を整えるために咳払いをしようとしたが、大きくすると失礼なので、ひかえめになっている。

イ 話が途切れ、母ちゃんが仕事にもどりそうになったので、本題に入る機会を逃してはいけないと咳払いをするこ
とで母ちゃんの気をひこうとしている。

ウ 我ながら思い切ったことを考えついたものだ当初は自画自賛していたが、いざ実際に行動に移すとなると、勇
気と決断力が必要だと痛感している。

エ 親しいとはいえ他人の家の店番を買って出ようとしていることに対して緊張しているが、親友のためにも勇気を
出してお願いしようと覚悟を決めている。

問三 ―部③「母ちゃんの手のひらが、通せんぼをするみたいに目の前をふさいだ」とありますが、「母ちゃん」はな
ぜこのようなことをしたのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 何とかしてヤスに野球をやらせようと手を尽くすマナブのやさしさが痛いほどよくわかったから。

イ マナブにヤスのことでこれ以上迷惑をかけるのは母親としてのプライドが許さなかったから。

ウ これ以上マナブが話を続けると、そのやさしさに甘えてしまいそうで怖かったから。

エ 一人で酒屋を切り盛りするのは肉体的に辛いので、ヤスには、酒屋の手伝いをしてほしかったから。

問四 ―部④「すべてお見通しだった」とありますが、ここでの「すべて」に当てはまる要素として適当ではないもの
を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 酒屋の手伝いがあるためにヤスは野球部に入ろうとしないこと。

イ マナブはヤスに野球部に入ってほしいと強く願っていること。

ウ ヤスがマナブに店番を代わりにやってくれないかと頼んだこと。

エ マナブはヤスの代わりに自分が店番をやればヤスは野球をやれると考えたこと。

問五 ―部⑤「鼻の奥がツンとした」とありますが、このときの「マナブ」の心情を説明したものとして最も適当なも
のを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア せっかくヤスのことを思って店番を買って出たにもかかわらず、ヤスの母ちゃんに話を途中でさえぎられたため、
自分の本当の気持ち十分伝えられず、悔いが残った。

イ ヤスの母ちゃんからやさしい言葉をかけてもらったり頭をなでられたりしたが、マナブにとっては久しく味
わったことのない感覚であり、うれしさと同時に感傷的な気持ちになった。

ウ 予想外の展開にどうしていいのかわからなくなり、母ちゃんにかけるべき言葉を探していたところ、母ちゃんか
ら先に頭をなでられたので照れ臭かった。

エ ヤスの代わりに店番をやって、ヤスには野球部に入ってもらおうというシナリオが崩れてしまったために、この先
どうしていいかわからず混乱した。

問六 — 部⑥ 「『標的』としての価値」とありますが、「標的」という言葉にカッコをつけているのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「価値」とは本来好ましいものに使われる言葉だが、軍の基地があり人口の多い広島は、一度の爆撃で大きなダメージを与えることができるという好ましくない点で価値があるということと強調するため。

イ 戦争の世界においては、どれだけの多くの人を殺すことができるかという点に国の権威と、それに伴う信頼感がかかっており、道徳的な善悪を考えることは無意味であるということと強調するため。

ウ 戦争を体験していないマナブにとってその残酷さは、あくまで想像するしかない世界であり、展示品を見てもなかなか実感がわいてこないが、何とか理解しようと努力していることを強調するため。

エ 広島を軍都として国を挙げて繁栄させたことは好ましいことではあったが、その反面、敵に狙われる可能性が高まり、結果として原爆を落とされたため、国策として誤りであったことを強調するため。

問七 — 部⑦ 「パネルから顔をそむけた」とありますが、なぜ「顔をそむけた」のですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 戦争の悲惨な状況を伝える展示品が次々と目の前に現れるうちに、敵国に対して怒りを感じるだけでなく、相手にも同様の苦しみを味わわせてやりたいという非人道的な考えが浮かんだから。

イ 戦争を体験していないマナブにとって、戦争はあくまで想像の産物であり、展示品を通していくら理解を深めたところで、終わってしまったことはどうしようもないことだと悟ったから。

ウ マナブ自身、母親に対して憎しみとともに心のどこかに愛情を求めており、爆撃機に機長の母親の名前が付けられていたことを知り、敵国ながら共感を覚えたことがはずかしかったから。

エ 原子爆弾につけられた非常識な名前に加えて、爆撃機には機長の母親の名前が付けられていたことを知り、憤りを感じるとともに、「母親」に対して悪いイメージを持ちたくなかったから。

問八 — 部⑧ 「たくさんのことを、いつべんに考えんでもええんよ」とありますが、「母ちゃん」は「マナブ」にどうしてほしいのですか。それを簡潔に言い表した言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 同情

イ 共感

ウ 忘却

エ 期待

問九 ― 部⑨「甘いかも知れんけどねえ」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 最も大きな被害を受けた広島で生活する人間としては、戦争に対する認識が欠如しているということ。
- イ 戦争被災者の苦難を忘れずに思うことは、平和を願っているだけであって、活動とは言えないということ。
- ウ 大きな被害をもたらした戦争の相手国に対する気持ちとしては、厳しさが足りないかもしれないということ。
- エ 戦争によって大切な人を失った悲しみという点においては、まだまだ想像力が不足しているということ。

問十 ― 部 A・B・C の空らんにはまる文字を「ひらがな」で答えなさい。ただし、□一つを一字分とします。

問十一 本文の表現に関する次の説明について、正しければ「○」、誤っていれば「×」と答えなさい。

- ア 方言を使うことで地域性や現実性がより読者に伝わってくる。
- イ 比喩や擬音語を多用することで情景がイメージしやすくなっている。
- ウ 心情描写よりも情景描写を多用して人物の心情を間接的に伝えている。
- エ 本文はマナブの視点を通して描かれている。

						二 点
問九	問八	問七	問五	問三	問一	
A						
B			問六	問四	問二	
C						

				一 点
問四	問三	問二	問一	
4	1	4	1	
		(える)	(けた)	
5	2	5	2	
		(づ)	(める)	
3	3	3	3	

													三 点
問十		問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一			
ア	C	B	A										
	念を	拍子	途方に										
イ													
	た	しながら	ていた										
ウ													
エ													

受験番号				氏名		点